

1997年ダカールラリーで日本人として初優勝した篠塚建次郎(66)組(スズキ・ジムニー)が総合5位に浮上した。非力な車両には厳しいコース設定だが、大ベテランの技で克服した。車いすドライバーの青木拓磨(41)組(いすゞMUR-X)は総合10位、元プロダクションカー世界ラリー選手権王者の新井敏弘(48)組(いすゞD-MAX)はアクシデントで同21位に順位を下げた。

日本人トップ

レグ2は大荒れ。アシカンらしい悪路のオンパレードで、あちらこちらでクラッシュやコースアウトが多発した。元世界王者の新井も前車のクラッシュに巻き込まれて車両前部を大破すれば、その後、青木拓磨も追突する波乱の連続。が、大ベテランの篠塚はベースを保って順位を上げた。

「今日のコースは泥道3割、でこぼこ道が4割、ハイスピードコーナー3割といった感じ。最後のほうは燃料がなくなっただけでベースを落とさず、ラリーを楽しんでいきます」。燃費がきつくなるとしてSSの残り3分の1ほどはドライブのような走りになったが、この日は132kmあったSSでは7番手。総合では日本人トップの5位に浮上した。

乗り込むクルマは非力なジムニー。「今日のようにアツブダウンが激しい道だとパワーがないんでローギアの3速がメイン。下りで4速が使えない。壁のような上りが

「ラリー楽しんでいきます」

始まると、もう本当にきつかった」と篠塚。排気量が1・3ℓのガソリンエンジンがベースでは、かなりの苦行だった。

それでも結果を残すあたりはさすが。まして初挑戦のアシカンだ。ナビゲーターのEJ千葉は「まだ全開にしていませんよ」と篠塚の走りを高く評価する。3年ぶりの実戦を楽しむレジェンドが、じっくりとベースを上げてきた。



悪路を軽快に走行する篠塚のスズキ・ジムニー【切り込み】日本人最上位に浮上した篠塚が誇らしげにサムアップ

◆アジアクロスカントリーラリー4輪部門◆ (8月10日/レグ2/497km/SS=132km)

順位	ドライバー	マシン	タイム(差)
1	N・アグリットハノン	いすゞD-MAX	4時間01分15秒
2	W・チョティラビー	いすゞD-MAX	8分37秒
3	O・サーンシリラット	いすゞD-MAX	15分52秒
4	C・オンスリ	三菱トリトン	16分32秒
5	篠塚建次郎	スズキ・ジムニー	20分08秒
6	堀 郁夫	トヨタFJクルーザー	20分51秒
7	浅井道浩	いすゞD-MAX	20分59秒
10	青木拓磨	いすゞMUR-X	24分25秒
21	新井敏弘	いすゞD-MAX	11時間30分28秒
25	青木孝次	三菱アウトランダー	11時間41分42秒

※出走28台